

全員協議会 会議録（要点筆記）

令和4年3月25日

午後1時30分 開会

午後2時20分 閉会

場所：全員協議会室

【上程議案の補足説明】

1. 半田市がん患者アピアランスケア支援事業の実施について

竹部益世健康子ども部長：資料に基づき説明

質疑なし

2. 半田市市税条例等の一部改正の概要について

坂元照幸総務部長：資料に基づき説明

質疑なし

3. 半田市国民健康保険税条例の一部改正について

新村隆福祉部長：資料に基づき説明

鈴木健一議員：1点目、改正理由のところ、将来的に愛知県内の保険税率が統一される見込みであることから、とあり、これは限度額を上げる時によく使われるフレーズですが、統一の時期などスケジュール感がわかっていれば教えてください。2点目、法定限度額と課税限度額を同じにしておいた方が移行しやすいためとありますが、この「移行しやすい」とは「誰」を指しているのか、市民であるのか、行政側の事務の問題か、を教えてください。

新村隆福祉部長：まず1点目の県内保険税率の統一の方向性について、愛知県の場合は、統一の年度などは明らかにされていません。愛知県が昨年度国保税の計画を策定しており、その計画内で「（保険税額の）統一を目指していく」と表現がされていますので、半田市においても、県の方針に沿った形であった方が適切であると考えています。2点目の「移行しやすい」については、現在の半田市の保険税は一人あたりに換算した場合愛知県内でも安い状況です。今の県のレベルに半田市を合わせようとした場合（保険税を）上げざるを得ません。その時にかかる負担が緩やかになるよう、現時点で進めておくことが適切であると判断したものです。

【報告案件】

1. 半田市制85周年記念事業について

山田宰企画部長：資料に基づき説明

中川健一議員：85周年記念事業を実施する意義が理解できません。80年、90年など10年単位で実施するのであれば、まだ理解できるのですが、5年単位の中途半端な時期で記念事業を実施しなければいけない理由を教えてください。

山田宰企画部長：10年単位の場合は「大きな節目」として捉え、5年単位の場合は「小さな節目」として、市民と一緒に「市の誕生日」を祝っていこう、という趣旨で行うものです。

中川健一議員：市民からそういった（市の誕生日を祝いたい）ニーズがあるのですか。

山田宰企画部長：市民から直接これをやりたい、という声は聞いていませんが、この事業は、市

民にお知らせして、一緒にお祝いをしていくべき、と判断したものです。

2.令和3年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議評価報告書について

山田幸企画部長：資料に基づき説明

質疑なし

3.半田市DX推進計画について

山田幸企画部長：資料に基づき説明

鈴木健一議員：デジタル化に大きく反対はしませんが、行政手続きのオンライン化など効率化などが良く聞かれる中で、窓口業務の人員や業務の削減などサービスの低下が懸念されます。その点について、市の方向性が決まっていれば教えてください。

山田幸企画部長：デジタル化の推進によって業務の効率化を図ることは、職員がルーチン作業に追われる負担の軽減にも繋がると考えています。負担軽減から窓口業務がより丁寧に対応できるなどの改善も期待でき、そういった点も計画の中には織り込んでいます。

鈴木健一議員：とすると、職員数の減などは現時点で考えていない、という理解でよろしいですか。

山田幸企画部長：デジタル化と人員の削減を直接結びつけて考えるものではないと判断しています。適正な人員配置を行うことは引き続き行っていくことですし、それがデジタル化に直接結びついているものではないと考えています。

4.令和3年度パブリックコメント手続の結果及び各種計画等の策定について

山田幸企画部長：パブリックコメント手続全体共通事項について資料に基づき説明
＜各計画等のパブリックコメント手続の結果及び計画の策定について＞

山田幸企画部長：①、②の計画について資料に基づき説明

① 半田市市民チャレンジ協働プラン

② みんなが輝くチャレンジプラン～第3次半田市男女共同参画推進計画～

出口久浩市民経済部長：③、④の計画について資料に基づき説明

③ ゼロカーボンシティはんだビジョン

④ 第3次半田市産業・観光振興計画

大山仁志建設部長：⑤の計画について資料に基づき説明

⑤ 半田市ふるさと景観計画

岩橋平武教育部長：⑥、⑦の計画について資料に基づき説明

⑥ 半田市文化芸術推進計画

⑦ 半田市立博物館展示整備基本方針

質疑なし

5.債権運用による基金管理の効率化について

坂元照幸総務部長：資料に基づき説明

中川健一議員：私も平成29年度総務委員会の委員であったので「ラダー型」については少し勉強したのですが、問題は、今からインフレになって金利が上がっていくことが予想されます。日本の金利がそれほど上がらない可能性もちろんありますが、上がっていく状況の中で債券を購入すると、債券の価格が下がってしまいます。そういった危険性も充分理解したうえで、今から債券を購入する判断をしたのですか。

坂元照幸総務部長：今後のインフレの発生については、現時点では予測できませんが、大口定期での運用の金利が非常に低く、年間で1億円預けても利息は4万円にしかならない、直近の利回りを確認すると20年もので0.695%で1年で69万5千円の利息が入ってくることになり、10倍以上の利益が生じます。早期にこのような債権による効率的な運用を目指すべきで、これから20年間のラダーを構築していくのですが、ご指摘のようなインフレの状況となった場合は、この基本の計画は見直しをすることもあり得ますが、現在のところは、ご説明させていただいた計画を進めていきたいとするものです。

中川健一議員：市役所が運用しなくても、20億円の余剰があるのであれば、市民に減税等で還元し、市民が自らの考えで有効に使うという判断もあると思うがいかがか。

坂元照幸総務部長：運用資金は不要なものではなく、財政調整基金や公共施設整備基金のうち、即時に使う予定はありませんが、将来の半田市に必要な財産を効率的に運用しようとするものです。

6.証明書等交付手数料へのキャッシュレス決済の導入について

坂元照幸総務部長：資料に基づき説明

質疑なし

午後2時20分 閉会